

データ移行、政策提言提出、そしてプロジェクト終了へ
(2024年3月20日)

早いもので2019年4月に始まった本プロジェクトも、5年の実施期間を経て、終了の時期を迎えました。3月1日に実施した最終セミナーでも議論をしたプロジェクトの政策提言ですが、これは日本語、英語、ベトナム語で作成し、保健省 HIV/エイズ予防局(VAAC) Phan Thi Thu Huong 局長に正式に提出しました([JICA・HP ページのプロジェクト資料集](#)にも内容が掲載されました)。これまでプロジェクトが実施してきた研究データに基づき、①Dolutegravir (DTG) の普及および安定供給を促進する。年に1度のウイルス学的モニタリングを保障し、HIV 医療・ケアの施設間格差を解消する、②PrEP 使用者のサービスエンゲージメントと服薬アドヒアランスを向上し、効果的な PrEP の拡大を推進する、③HIV 情報システムの統合と強化、と大きく3つの柱で提案しました。



HIV 薬剤耐性ナレッジブックを保健省
HIV/エイズ予防局 Do Thi Nhan・HIV 治療室長に提出



遺伝子検査による薬剤耐性検査データを
地方病院で実際に H-MED へ移行してみます

また、これまで共にプロジェクトを実施してきた地方病院を訪れ、プロジェクト研究の中で蓄積された遺伝子検査結果を、ベトナムの国のデータシステムである H-MED に移管する作業を行いました。プロジェクトにおける研究結果を地方パートナー病院とも直接シェアし、これまでのプロジェクト活動への積極的な参加に感謝の意を伝えました

5年間というプロジェクト実施期間でしたが、途中新型コロナウイルス感染症による大混乱の中で過ごしたベトナムでの日々もあり、長いようであっという間に過ぎたような気もします。ともあれ、今回プロジェクト活動をここまで実施できたことに、日本・ベトナムの関係者の皆様に感謝申し上げると共に、今後もプロジェクト活動が残したものを活かして、ベトナムにおける HIV/AIDS 治療・予防が更に効果的なものになっていくよう祈念して、プロジェクト最後のニュースレターとしたいと思います。皆様、これまでのご協力、どうもありがとうございました！